

## 松陵小学校における森林整備作業

11月10日（木）酒田市立松陵小学校の五、六年生を対象とした「森林整備作業」を酒田市光ヶ丘の「万里の松原（さえずりの森）」で実施しました。

松陵小学校では、総合学習の時間を利用して地域を飛砂や暴風から守ってくれている庄内海岸林（クロマツ林）の森林整備を平成18年度から継続して行っています。学校としては、児童に直接森林整備を体験させることにより、地域のクロマツ林を保全する意識を理解させ、地域社会へ積極的に貢献する心を育成することとしており、これまでも上級生（五、六年生）がクロマツ林の枝打作業などを実施してきました。

この日酒田地域は、朝から晴天の天気恵まれ絶好の作業日和となり、松陵小学校の五年生52名、六年生47名、先生4名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター4名、庄内森林管理署1名、酒田市農林水産課1名、庄内総合支庁森林整備課2名、万里の松原を親しむ会12名、総勢123名が学校の体育館西側駐車場に集合しました。

まず、庄内森林管理署庄司流域管理調整官から作業の目的や仕方などの指導を受けました。その後、5人組で各班に分かれ整列しました。当センター4名は、五年生の1～4班の班長を仰せつかりました。

「さえずりの森」に向かう途中で、ある五年生が「今日の作業が楽しみだ。」と話してくれたので、なぜかと尋ねてみると、とにかくノコギリで木を伐って見たいからの答えが返ってきました。

各班毎に、班長から班員に作業内容、安全作業の心得等について説明をしました。腰鋸を初めて使う生徒も見られた反面、今まで、使ったことのある生徒もいて幾分か安心しました。しかし、作業地に入ってテープの巻いてある木を見ると、この太いタブノキを伐らせるのかと不安もよぎり、出来るだけ細い木（タブノキ等）を伐らせることにしようと思いましたが、班員たちの心意気に、少し太い木を伐って見せることにしました。樹高14m、胸高直径24cmのタブノキは、大人でも伐るのに気が引ける大物です。「倒れるぞー」と大声で注意を促し、周りに倒風が無い上がり、タブノキが倒れた様を見た班員からは、「うわーすごい」と思わず大きな声があがりました。伐倒の怖さを知らない班員達は、腰鋸で大きなタブノキを伐ろうとしていたため、班長が見ていない時や、手助けできないような大きな木は伐らないように注意しました。班員達は大きな木を伐りたいとの願いがありましたが、他のタブノキ1本で伐倒は終わりにして、後は伐倒した木の玉切りや運搬、集積作業を行いました。

こうして作業を終えた「さえずりの森」には、太陽の光がクロマツの根元まで届くようになり、最良の環境となりました。

最後に、閉会行事で五、六年生からの感想が寄せられ、ある五年生から「木を伐ることがいかに大変で技術も必要なのがわかった。このような作業をして下さる方に感謝したい。来年も森林整備に参加したい」と嬉しい言葉をいただきました。

参加者全員がケガなく無事作業が終了できたことは何よりでした。

